

# 医療安全マスター養成プログラム

## 平成29年度（第2回・第3回）開催のご案内

# 医療安全を、 学びほぐす

9/1  
受付  
開始

日本医療機能評価機構は、病院が安全で質の高い医療を提供するための活動を支援してきました。平成28年度からは、病院において医療安全の実務を担っておられる方のレベルアップを支援するため医療安全アドバンスコースを立ち上げ、そのファーストステップとして「医療安全マスター養成プログラム」を開講しています。

このプログラムは、医療安全・患者安全に関してすでに一通りのご経験と知識をお持ちの方を対象に、一段上の実践を目指すための講義と議論の機会を提供することを目的としています。

今年度は2回、開催します。医療安全に関わる多くの方の、積極的なご参加をお待ちしています。

### 経験を活かす

これまでの経験を  
明日の実践に

これまでの経験はあなたの大事な財産です。

研修の機会を使って、日常の業務や学んだことを振り返ってみませんか。

### 協働学習

ネットワークが  
広がります

研修には医療安全・患者安全に真剣に取り組む方が全国から集まります。

ネットワークを広げる絶好のチャンスです。

### 新しい視点を

いつもの業務を  
違う視点から

研修では第一線の講師をお招きし研究や社会情勢を踏まえた新たな視点や考え方をご講義頂きます。より深い洞察を得るヒントになります。

「学びほぐし」  
unlearn



unlearn（アンラーン）という言葉をご存じですか。

un [否定の意味の接頭辞] とlearn [学ぶ] ですから、直訳をすると「学習や知識の棄却」となりますが、

哲学者 鶴見俊輔氏はこの言葉を「学びほぐし」と訳したといいます。それは、「型通りにセーターを編み、ほどいて元の毛糸に戻して自分の体に合わせて編みなおす」という情景を想起させる営みである、と。

このプログラムは、まさに「学びほぐし unlearn」の場です。

これまで、皆さんが学んだこと、経験したこと、それらを一度すべてほぐして、ふたたび編んでいただく。

修了後には、新たな気持ちで現場を見ていただけるよう、工夫をこらしています。

# 医療安全マスター養成プログラム Day1・Day2のご案内

## 対象

医療安全に関する基礎を学んだ方で、実践力を高めたい方

- ・職種は問いません。
- ・下記のいずれかの要件を満たすことが必要です。
  - ① 医療安全部門の責任者もしくは専従者であること。
  - ② 医療安全対策加算に係る研修(通算40時間以上)を修了済みであること。  
もしくは相当の知識と経験を有していること。

## 日程

第2回 2017年12月2日(土)・3日(日)

第3回 2018年2月24日(土)・25日(日)

[1日目] 9:00~18:00 [2日目] 9:00~17:00

いずれかの日程をお選びください。講師が一部異なりますが取り扱うテーマは同じです。

## 会場

日本医療機能評価機構 9階ホール  
(東京都千代田区)

## 定員

各回 48名

## 参加費

- ・病院機能評価認定病院、  
又は受審申込済みの病院にご所属の方 60,000円(税込)
- ・上記以外の医療機関にご所属の方 80,000円(税込)  
昼食代を含みます。宿泊・交通につきましては各自でご手配ください。

## 申込み

9月1日以降、ウェブからお申し込みください

- ① 検索サイトで「医療安全アドバンスコース」を検索してください。
- ② 病院機能評価事業ホームページ (<https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/>) 内の「教育研修>医療安全アドバンスコース」に移動します。
- ③ 「お申込みはこちら」ボタンをクリックして希望の日程をお選びください。

## 講師

(五十音順・敬称略)

荒井 俊行	(弁護士)
筧 淳夫	(工学院大学建築学部建築デザイン学科 教授)
荒神 裕之	(総合病院厚生中央病院 院長補佐)
小林 健一	(国立保健医療科学院医療・福祉サービス研究部 首席主任研究官)
清水 紀子	(医療過誤原告の会)
瀧本 禎之	(東京大学医学系研究科 准教授/患者相談・臨床倫理センター長)
田中 健次	(電気通信大学大学院情報理工学研究科情報学専攻 教授)
永井 弥生	(群馬大学医学部附属病院医療の質・安全管理部 部長)
中島 和江	(大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部 教授・部長)
橋本 廸生	(日本医療機能評価機構 執行理事)
長谷川 剛	(上尾中央総合病院 院長補佐・情報管理部長)
宮脇 正和	(医療過誤原告の会 会長)

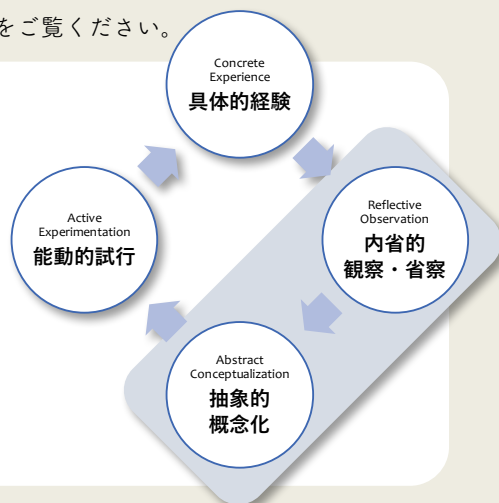
日程によって講師が一部異なります。次頁をご覧ください。

## 一経験を活かして、実践につながる学びを

💡 この研修プログラムは、コルブの「経験学習モデル(1984)」を参考に開発をしています。

研修当日は内省的観察・省察(Reflective Observation)と抽象的概念化(Abstract Conceptualization)のプロセスに重点を置き、業務への応用を念頭に進行します。

医療安全の業務に活かせるテーマばかりを用意していますが、「講義を聞いて、覚えて終わり」ではなく、意識的に日常の業務を振り返っていただくことで、より良い実践につながります。



# Day1

## 9時～18時 『予防的安全管理』

\*全体オーガナイザー：長谷川 剛

科目・テーマ	講師（第2回）	講師（第3回）	ねらい
◆ 医療の安全とは	橋本 迪生	橋本 迪生	・プログラムの趣旨を理解する ・医療安全・患者安全が学問として整理されてきた歴史・背景を理解する
◆ 医療安全・患者安全に通底するもの	田中 健次	田中 健次	・工学や心理学等の関連領域における学問的基盤を参照し、医療安全・患者安全を脅かす事象への具体的な解決方法を考える
◆ 施設・環境・設備のマネジメント	小林 健一	笥 淳夫	・建築・環境デザインの視点から、医療現場におけるリスクを考える
◆ 医療システムとレジリエンス	中島 和江	長谷川 剛	・複雑系システムの概念を把握する ・医療現場で起こるさまざまな事象をシステムとして把握する
○ 1日目の振り返り	長谷川 剛	長谷川 剛	

# Day2

## 9時～17時 『リスクが顕在化した後の安全管理』

\*全体オーガナイザー：長谷川 剛

科目・テーマ	講師（第2回）	講師（第3回）	ねらい
◆ 予期せぬ有害事象への、具体的対応			・予期せぬ重大な有害事象への対応について、複数の目線から対応を整理し、自院での取り組み（マニュアル・指針・ルールの改訂等）に活かす
[それぞれの立場からの話題提供]			
・患者、家族の立場から	清水 紀子	宮脇 正和	
・法的観点から	荒井 俊行	荒井 俊行	
・メディエーションというアプローチ	永井 弥生	荒神 裕之	
・臨床倫理の観点から	瀧本 禎之	瀧本 禎之	
[グループワーク・総合討論]			
・予期せぬ有害事象への、具体的対応			
○ 2日間の振り返り	長谷川 剛	長谷川 剛	

## 『医療安全マスター養成プログラム』の全体像

～ 一段上の実践を支援します～



- ・これまでの経験を内省する機会を提供します
- ・新たな視点や知識を獲得できます

- ・獲得した視点や知識を活用したワークを行います
- ・学んだことを言語化し、自分の言葉で総括します

- ・4日間のプログラムを修了された方には「医療安全マスタープログラム修了証」を発行いたします

**今回募集**

後日、限定募集

継続研修 (Day3・Day4) は...

- ・Day1・Day2をお申し込み頂いた方に限定してご案内いたします
- ・Day1・Day2の内容を題材にした事前課題が課されます
- ・受講費用は別途頂戴いたします



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
Japan Council for Quality Health Care

医療安全アドバンスコース

検索



お問い合わせ

(公財) 日本医療機能評価機構 教育研修事業部 教育研修課  
TEL: 03-5217-2326 (直通) E-mail: kenshu@jcqhc.or.jp  
ホームページ: <https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/>

2017.08.20